

念願の関東大会

Best 8 出場!!

身長の低さをし三ツの良さとチームワークでカバー

結果報告

都予選大会 5月14日(日) 於：駒場

1回戦 東大和 2 { 15-2 } 0 練馬
和 { 15-8 }

相手が本大会初出場ということで、余裕があったせいか、最初から最後までうちのペースで試合をこなしていった。

2回戦 東大和 2 { 15-1 } 0 武蔵野
和 { 15-12 }

一セット目は軽くこけたということでも二セット目安心感があったのか相手にリードされていたが後半どんどんおいあげ、最後はねばりの強さで勝てた。

3回戦 東大和 0 { 3-15 } 2 明大中野
和 { 7-15 }

最初は、ごかくにやっていたが、ドラッグサーブでくずされて、そのまゝ、相手のペースにまきこまれて終わってしまった。

予選(4支部) 5月17日(日) 於：成蹊

1回戦 ミード

2回戦 東大和 2 { 15-0 } 0 昭和三井
和 { 15-1 }

サーブや、アタックの決定率が高く、最初から最後まで、うちのペースで試合をこなしていった。

3回戦 東大和 2 { 15-3 } 0 成蹊
和 { 15-3 }

春季大会の時に、コート決闘まで行った経験に思っていたより、スムーズに勝てた。

4回戦 東大和 2 { 15-7 } 0 荻窪
和 { 15-7 }

関東大会日程

日時 昭和53年6月3日(土)

開会式 午前 9:20 中野区立体育館

競技開始 午前 10:30 中野区立体育館
午前 11:00 他体育館

昭和53年6月4日(日) 午前 9:30 競技開始

会場 中野区立体育館・佼成学園高校体育館・新宿区立体育館
成城高校体育館

※ 先輩方も、お暇がありましたら、ぜひいらして下さい。
はよ、組合せは五日ごろわかります

“関東大会出場を果たして

※ 柳川 憲二 ・・・・・・・・

神田からのきれいな二段トスを相手コートにたたき込み。

「ピ、ピー」とゲームセットの笛がなって、みんなでコートに整列した時
誰からともなく、「関東だ / best 8だ /」という声が聞こえてきた。

そして自分自身、心の中でそう言い聞かせた。先生と木下さんが、がっちり
握手を交わして喜んでいる。

泣こうとは思っていなかったのに、目に涙がたまってきて、ボロボロコート
に落ちていった。涙は先生の所に集合しても止まらなかった。そして先生が
「何も言うことはない みんな良くやった。」と言って一人一人と握手をして
くださった時、声を出して泣いてしまった。先生の横で木下さんが泣いた。
そして先生も泣いた。

「なんて僕達は幸福なんだろう」とつくづく思った。そして関東に行けるこ
とがこんなにすばらしいなんて僕はこの東大和男子バレー部に入って本当に
よかったと思う。

又、OBの先輩達が、この知らせを聞いて喜んでくれる姿を思い浮かべると
何とも言えない。木下さんの家にご飯がおしかけていって、OBの先輩方とも

交わした関東大会出場が、ついに現実のものとなった。

僕(たぶん、他の3年生もそうだと思うが)は自分自身でも、もちろん関東出場を喜んでいるが、先生や木下さんをはじめとしたOBの先輩方に、このことを喜んでもらうことが何によりもうれしい。

そして又、先生と先輩方が一番喜んでくれると思う。関東出場によって、先生と先輩方に恩返しができたと思っている。

僕は今、満足している。みんなも同じだ。

うれしい・・・うれしい・・・本当にうれしい！

—以上—

※ 奥山 敏 則 ・ ・ ・ ・ ・

“ やった ” この一言に限る。

念願だった関東大会出場を果たしたわけだが、今、僕の心の中は満足感で一杯である。いままでの先輩方が果せなかったことができたのである。

我々が、チームを組んだ時の目標に「チームワーク」というのがあった。

それもどうやら 月曜日(5/6)のミーティングで先生が、「本当にまじまったチームだ」と言われていた。

本当に、くいのはい試合が出来た。これは、我々だけの力でははいだろう。先輩方のあと一歩で関東に出場できなかったくやしさを、それによく練習に来ていただきいろいろな指導によるものが大きいだろう。

ほとんどが、素人同然の我々がここまで出来たのは、先生の熱心な指導によるものだろう。

最後に、先生・諸先輩方の期待にこたえることが出来て、本当によかったと思う。

5月14日：本当に、一生忘れられない日になるだろう。

※ 菊地 哲 夫 ・ ・ ・ ・ ・

新人戦、春季大会と本大会には行けたものの一度も勝つことができないまま関東大会本大会に進んだ。best 16以内に一度も入っていない僕たちにとっ

て、関東への道は遠いものだった。

練馬との試合は、相手が本大会初出場だったので、キャリアの差で勝ったが、その時はまだチームの回転がよいとはいえなかった。

次の法政-高との試合である。1セット目は、相手が少しビビっていたせいもあって、1点でおさえたが、次のセット12対8からひっくりかえして勝った時、ほんとうに自分達のカで勝ったんだと思った。

自分達のカというのは、もちろんチームのカもそうであるが、その他に、先生やOBやマネージャーなどの影のカである。だから関東に行けるのはそれだけですからうれしいことだが、それ以上に先生・OB・マネージャーなどの期待にこたえられてよかったというのが、今の自分の気持ちである。

僕達の最終目標だった関東大会の出場権獲得も達成出来たわけだが、出場する限り1回勝ち、1回勝てば2回勝つことである。

又、新しい目標に向かって前進あるのみ！

※ 中島 遼

とにかく俺達はやった。3・4年ぶりの目標を達成したのである。

ほんとうにうれしかった。best8に入って関東出場が決まった時、みんなの目に涙が光っていた。俺も同様だった。

ベニチに帰って、先生に握手を求められた時は、涙がこぼれてきた。

先生や木下さんまでが泣いてくれた。この時ほど、俺はバレーをやってきてよかったと思ったことはない。なんとも言えない感動に満ちていた。

試合について言えば、'もしかしら'これが引退試合になるかもしれない。

そんな気持ちがみんなの中にあっただから勝てた。この試合にすべてを賭けていた。だからこそ、良い結果がうまれた。

先輩や先生そして、マネージャー、そんな人達の期待をも背負っていた。

俺達は、俺達だけのために、バレーをやっていてはいけないのだ。

こんな人達のためにも勝たなければならなかった。

期待をうらぎらなくて本当によかった。

それに、俺達は“関東出場”という目標の為に、常日頃から木下さんたちに言われてきた“鬼の目に涙を見る”二の目標をも達成したのだ。

今度は、関東で、1つでも2つでも勝つという目標のために、頑張っ、て行きたい。

※ 宮村 喜成

法政一高との関東出場権をかけた一戦が始まった。

第1セットを軽く取ったところで、まずまちがいなく関東へ行けるだろうと思ったが、第2セットが始まり、まるで第1セットを1点でおさえて取ったのガウソのように法政一高に、リードされていった。

12-8まで来たところで、こっちがぐんぐん追いあげ、14-12とリードし、最後の1点を取った時に、なんとも言えない感動が胸をつらぬいた。

この時だけは、みんなうれしさをこらえきれず涙をこぼして喜こんでいた。2年間とちょっとやってきたクワズの成果が実ったということには本当に、よかったと思う。しかし、せっかく関東へ行けるのだから、関東へ出ることだけに満足せず、1つでも2つでも勝たなくてはならないと思う。

※ 小野 訓紀

ついに念願の関東大会への出場権を獲得した。それも、オワ期生、僕達の代で。先生もおっしゃっていたようにこういう事は、もう二度と来ない訳で、とても良い思い出になりそうです。関東大会予選本大会とは、練習の時はそれほど元気一杯ではなかったように、さすがに試合が始まると皆きびきびとしていた。そして都立練馬を破り、法政一高の試合を見学している時には、三つならBest8も夢では無いかと、秘かに思っていた。そして法政一高との試合、1セット目は、法政を1点におさえ、2セット目、ちょっと危ない場面もあったが、東大和は“竜地”を見せ、みごと勝利を納め東大和の強さを